

日本ITU協会 研究会開催一覧 (2025年10月~12月)

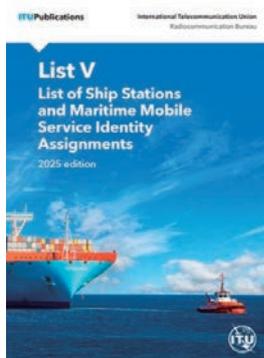
ITU-R研究会	テーマ	概要	講師
第427回 2025年10月30日	国際民間航空条約付 属書と無線通信規則	国土交通省航空局勤務を経て、JPO試験に合格、2010年より国際民間航空機関（ICAO）に日本国外務省より派遣されました。2011年からは正規職員として採用され、現在は、ICAO本部にて航空技術局CNS技術オフィサー（周波数管理担当）として勤務しています。本講演では、これまでの経歴、国際航空民間航空機関での業務内容をお話しさせていただくとともに、ITU関連の会議で航空関連の話題が出た時によく耳にする国際民間航空機関（ICAO）とは何なのか、SARPsとは一体何なのかをITUと無線通信規則との関連付けでお話しさせていただきます。また、国際民間航空条約付属書のSARPs改正及びそれに付随する手続き、WRC-27に向けての航空側の立場についてもお話しさせていただきます。	CNS Technical Officer, Communications, Navigation, Surveillance and Frequency Spectrum Management (CNSS) Section 国際民間航空機関（ICAO） 宇都宮 美恵氏
第428回 2025年11月20日	地上系と非地上系 ネットワークにおける 統合制御技術の現状 と挑戦	近年、低軌道衛星を中心とした衛星コンステレーションの発展により、非地上系ネットワーク（NTN：Non-Terrestrial Network）が急速に拡大しています。これに伴い、地上系ネットワーク（TN）との統合や、複数事業者・複数システム間の連携を円滑に行うための制御技術の重要性が高まっています。 本発表では、日本における取組みとして、複数の光通信コンステレーション事業者間の連携技術や地上系・非地上系を統合したネットワーク制御技術についての実証プロジェクト及び関連標準化活動について報告いたします。	国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT） ネットワーク研究所 ネットワークアーキテクチャ 研究室 研究マネージャー ベド カフレ氏 国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT） ネットワーク研究所 ワイヤレスネットワーク研究 センター 宇宙通信システム研究室 主任研究技術員 関口 真理子氏
第429回 2025年12月18日	ソフトバンクにおける HAPSの大容量化に 向けた研究開発の 取組み	高度約20kmの成層圏から広域エリアをカバーする成層圏プラットフォーム（HAPS：High Altitude Platform Station）は、大規模災害時の通信確保や、上空を飛行するドローンなどへの三次元エリアカバーなど、様々なユースケースでの活用が期待されています。 ITU-RではHAPS向け電波伝搬モデルの国際標準化が進められており、また、WRC-23においてもHAPSをIMT基地局として運用するための周波数追加が行われるなど、実用化に向けた取組みが着実に進んでいます。 本講演では、HAPSの大容量化や地上システムとの周波数共用の実現に向けたソフトバンクにおける研究開発の取組みについて紹介します。	ソフトバンク株式会社 基盤技術研究室 無線技術研究開発部 部長 星野 兼次氏

ITU-T研究会	テーマ	概要	講師
第577回 2025年12月2日	映像系サービスに関 する標準化審議動向 について —ITU-T SG12活動 動向より	ITU-T SG12では、音声や映像配信を中心としたマルチメディアサービスに関するPerformance、QoS、QoEに関する課題に取り組んでいます。 固定網や4G、5Gなどのモバイル網の高速・低遅延化により、映像を用いたサービスのトラフィックが急増していることに伴い、映像系サービスを中心とした主観・客観品質評価法や測定方法を中心に検討を進めています。 本講演では、SG12の役割、最新動向を紹介するとともに、活発に議論が行われている課題等について紹介します。	NTT株式会社 ネットワークサービスシステム 研究所 主幹研究員 [ITU-T SG12副議長] 山岸 和久氏



情報通信研究会	テーマ	概要	講師
第135回 2025年11月5日	映像符号化の標準化 動向	より品質の高い映像サービスの実現のためには、高効率な映像符号化技術の導入が不可欠である。本講演では、BS4K8K放送で用いられるHEVC（2013年標準化）や、最新の映像符号化方式VVC（2020年標準化）を中心に、映像符号化方式の技術的進展を概観する。 さらに、次世代映像メディアにおける柔軟なサービス提供を可能にするVVCのマルチレイヤ符号化技術を紹介するとともに、2026年より開始が見込まれるポストVVC方式の標準化動向についても展望する。	日本放送協会 放送技術研究所 テレビ方式研究部 副部長 岩村 俊輔氏
第136回 2025年11月27日	AIガバナンスの確立に 向けた総務省の 取組み —AI事業者ガイドライ ンを中心にご紹介—	生成AIを含むAIは、様々な領域で活用できる可能性を秘めているとともに、リスクも指摘されており、様々な議論がされています。その中で政府においては「AIの安全安心な活用が促進されるよう、我が国におけるAIガバナンスの統一的な指針を示すもの」として、総務省と経済産業省により「AI事業者ガイドライン」を2024年4月に策定・公表し、社会の情勢に合わせて随時更新を行っています。 本講演では「AI事業者ガイドライン」を中心に総務省におけるAIガバナンスに関する取組みについて説明します。	総務省 国際戦略局 国際戦略課 AI政策推進室 課長補佐 藤本 篤志氏
第137回 2025年12月16日	感情センシング・感情 AIの社会実装/最新 事例	感情AIや感情センシング技術の社会実装が加速する中、日本国内でもエンターテインメント・マーケティング・HR・ロボティクス・CRM・教育・介護・接客など多分野での導入が進んでいます。営業現場の可視化、顧客体験の最適化、従業員エンゲージメントの可視化、ヒューマノイドロボティクスにおける共感的応答、学習者の理解度解析・・・等々、活用領域は急速に拡大しています。感情センシング/感情AIエンジンの各ドメインにおけるユースケース、導入事例、導入効果、活用可能性、併せて直面している課題についてご紹介します。	株式会社エモーショナル・ テクノロジーズ CTO 山本 洋平氏

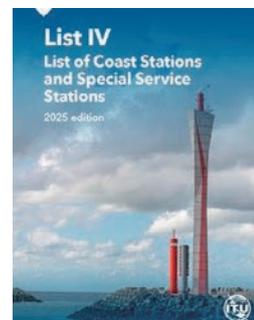
国際航海を行う船舶局に必須の書類 好評発売中！



船舶局局名録
2025年版



海上移動業務及び
海上移動衛星業務で使用する便覧
2024年版



-New!-
海岸局局名録
2025年版

お問い合わせ: hanbaitosho@ituaj.jp

